

「JENESYS2.0」

第18回中国教育関係者代表团

訪問日程 平成25年11月19日（火）～11月26日（火）

1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した第18回中国教育関係者代表团計29名が、11月19日から11月26日までの7泊8日の日程で来日しました。（総団長：王秀雲（オウ・シュウウン）中国日本友好協会・副会長、団長：関立彤（カン・リットウ）中国日本友好協会・秘書長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、日本の教育関係者との交流をはじめとしたプログラムのほか、各種教育機関訪問・視察、企業視察、伝統文化体験、地域見学等を通じ、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

11月19日（火）

成田空港着、オリエンテーション

11月20日（水）

墨田区立隅田小学訪問、文部科学省訪問、国会議事堂視察、歓迎会

11月21日（木）

品川女子学院訪問、墨田区立寺島中学校訪問

11月22日（金）

京都府へ移動、京都教育大学訪問、和風温泉旅館で日本文化体験

11月23日（土）

清水寺見学、日本文化体験（茶道）、金閣寺、嵐山見学、大阪府へ移動

11月24日（日）

ATC エイジレスセンター視察、パナソニックセンター大阪視察、商業施設視察

11月25日（月）

大阪府立今宮高等学校訪問、大阪城見学、大阪府政の説明、大阪府教育委員会との懇談会、歓送報告会

11月26日（火）

関西空港より帰国

3 写真

	
<p>11月20日 墨田区立隅田小学校訪問(東京都)</p>	<p>11月20日 文部科学省訪問(東京都)</p>
<p>11月20日 访问墨田区立隅田小学(东京都)</p>	<p>11月20日 访问文部科学省(东京都)</p>
	
<p>11月20日 国会議事堂視察 (東京都)</p>	<p>11月20日 歓迎会 江田五月日中友好会館会長 乾杯挨拶 (東京都)</p>
<p>11月20日 考察国会议事堂(东京都)</p>	<p>11月20日 日中友好会馆江田五月会长在欢迎会上致祝酒辞(东京都)</p>
	
<p>11月20日 歓迎会 安倍昭恵内閣総理大臣令夫人(右2)、王秀雲総団長(右1)が出席(東京都)</p>	<p>11月20日 歓迎会 程永華中華人民共和国駐日本国特命全権大使の挨拶 (東京都)</p>
<p>11月20日 安倍昭恵内閣総理大臣夫人(右2)和王秀雲総団長出席歓迎会(東京都)</p>	<p>11月20日 程永华中华人民共和国驻日本全权大使在欢迎会上致辞(東京都)</p>

	
<p>11月20日 歓迎会 神代浩文部科学省初等中等教育局国際教育課長と談笑する団員（東京都）</p>	<p>11月21日 品川女子学院訪問（東京都）</p>
<p>11月20日 歓迎会 神代浩文部科学省初等中等教育局国際教育課長と団員畅谈（東京都）</p>	<p>11月21日 访问品川女子学院（東京都）</p>
	
<p>11月21日 墨田区立寺島中学校訪問（東京都）</p>	<p>11月22日 京都教育大学訪問（京都市）</p>
<p>11月21日 访问墨田区立寺岛初中（東京都）</p>	<p>11月22日 访问京都教育大学（京都市）</p>
	
<p>11月23日 清水寺見学（京都市）</p>	<p>11月23日 茶道体験（京都市）</p>
<p>11月23日 参观清水寺（京都市）</p>	<p>11月23日 体验日本茶道（京都市）</p>

	
11月23日 金閣寺見学（京都市）	11月23日 嵐山、周恩来元首相の詩碑見学（京都市）
11月23日 参観金閣寺（京都市）	11月23日 参観嵐山和周恩来总理诗碑（京都市）
	
11月24日 ATC エイジレスセンター視察（大阪市）	11月24日 パナソニックセンター大阪視察（大阪市）
11月24日 考察ATC 忘年中心（大阪市）	11月24日 考察Panasonic Center 大阪（大阪市）
	
11月25日 大阪府立今宮高等学校訪問（大阪市）	11月25日 大阪城見学（大阪市）
11月25日 访问大阪府立今宫高中（大阪市）	11月25日 参観大阪城（大阪市）

	
<p>11月25日 大阪府政の説明（大阪市）</p>	<p>11月25日 大阪府教育委員会との懇談会（大阪市）</p>
<p>11月25日 大阪府政府講座（大阪市）</p>	<p>11月25日 与大阪府教育委員会座談(大阪市)</p>
	
<p>11月25日 歓送報告会 訪日成果報告（大阪市）</p>	
<p>11月25日 在欢送报告会上汇报访日成果（大阪市）</p>	

4 参加者の感想（抜粋）

○ 今回の活動で文部科学省と大阪府教育委員会を訪問したほか、大阪府立今宮高等学校と京都教育大学、公立の小中学校を訪問、さらに私立中学の品川女子学院も訪問し、日本の教育についておおよそ理解することができた。日本の教育システムについてもある程度知ることができ、この訪日が印象深いものになった。

日本の歴史と文化を知り、日本と日本人に対する印象にも変化があった。特に日本の教育では、教師と学生が置かれた教育的ポジションに対して明確な理解と認識があり、教師の幸福感と帰属意識を表している。また、学生の人格育成と健康な身体作りにも国の教育に対する意志が反映されている。学生の勉強方法については、十分な選択の自由を与え、運動能力の強化と参加型学習により力を入れており、自発的に探求させる方法が効果を上げている。中学、高校の段階で子供たちの自信、楽しみ、自由、人としての品性を養い、人格形成において良好な基盤作りをしている点は、私たちも見習うべきだ。中日の青少年は交流して学ばなければならない。中国の青少年にも、

道徳と智識の面で他の国が見習うべきところがある。両国の青少年は互いに学び、高めあうことで共通の目標を達成することができるのだ。基礎教育も重要で、特に、その学習方法、教育目標の達成度が大切だ。この点で中日の教育では育成目標と実施方法に違いがあるが、共通認識があるということが重要だ。中日青少年が互いに学び、高めあえることを願う。

○ 正確に言うならば、一番印象に残ったのは何か特定の事柄ではなく、感覚的なことだ。

1. マナーと礼儀

特徴的な微笑みと物腰の柔らかさで相手に良い印象を与え、“ホスト”と“ゲスト”の心の距離を縮める。

2. 清潔で衛生的

環境・衛生についてはもちろんだが、日本に来て久しぶりに青空と白い雲を見て、新鮮な空気を吸った。そのことに確かに興奮したが、称賛されるべきは国民の素養の高さが生活環境に良い循環をもたらしているところだ。私は特に細かい部分に注目した。街の外観、道路のほか、学校の教室、廊下、公共エリアの隅々にいたるまで、どこにもゴミがない。日本の国土は大きくないため使用できる空間に限りがあるが、どんなスペースでも最大限にその機能を発揮している。コンパクトなのにごちゃごちゃせず、密集しているのに秩序があり、さらに衛生状態も良い。日本という国から受ける感覚は、日本料理から受ける“緻密”という感覚と同じだ。

3. 健康への関心

随行してくれた通訳さんが道中、「日本人が作るものは、外国人に提供する場合、まずそれに適した形にする」と話していた。これは、日本人のやり方と真面目さをよく表していると思う。秋の深まった日本を歩いていると、女性の多くが薄手のストッキング姿で、子供たちの多くが半ズボンで発育の良い脚をのぞかせているのを目にする。学校を訪れば、体育の授業中の子供たちが半そで短パンでバスケットボールやバレーボールを行い、休み時間には鉄棒で遊び、クラブ活動でも熱心にスポーツに取り組んでいる姿が見える。この国は、国民の健康意識を小さい頃から養っているのだと感じた。

4. 学生が小さい頃から自分の人生や職業について明確な考えを持っていることに感動を覚えた。これは教育体制と直接関係があるだろう。

○ 活動に参加する前に想像していた日本人は、型通りで、好戦的というイメージだった。参加してみて分かったのは、日本人は礼儀を重んじ、親切で、友好的で、そしてあまり政治に関心がない。これまで日本に対して何か思ったことはなかったが、活動を通して、日本の経済、科学技術レベル、教育レベル、文化、環境の調和と美しさを知り、日本の印象を深めることができた。

今回の交流はハイレベルで深いものだった。8日間という短い期間で、日本という国の風土、文化、経済、科学技術、教育について理解し、以下の収穫があった。

1. 日本人は一般知識が高い。中国も国民の一般教養の教育により力を入れる必要がある。
2. 日本は資源を余す所なく利用し、環境保護に対する意識と行動力がある。これは私たちが学ぶべきだ。先に汚し、後から汚染物を処理する形ではなく、本当に持続可能な発展を目指すのであれば、日本の成長過程を参考にすることで回り道を避けられる。
3. 茶道、書道、礼儀作法など伝統文化をうまく継承している。中国もさらに努力すべきだ。
4. 科学技術が発展している。あらゆるところが細部まで神経の行き届いた人に優しい設計になっており、非常に素晴らしい。
5. 教育関連の施設や人材などが公平に行き渡り、教師の待遇も良い。中国も見習うべきだ。

○ 7泊8日の交流はあっという間に終わり、この充実感とごちゃごちゃが入り混じった気持ちを小さな紙1枚に書きとどめることなどできない。8日間の経験が少しずつ頭をよぎり、心がいっぱいになる。例えば、小・中学生のキラキラした笑顔や、運動場で軽やかに動き回る姿、日本の友人たちの温かく細やかなもてなし、狭くても清潔な通り、うっとりするような自然の光、繊細で豊かな食文化など。最も印象深かったのは、やはり学校訪問で感じたことだ。例えば、学校が「健やかで強い人間を育てる」を標語として掲げ、「強い」を教育目標としているが、半ズボン姿で快活に動き回る学生の姿は実に可愛らしくもある。大きな鞆でもなく、近視メガネでもなく、電子製品でもなく、人に自慢するためだけの成績ではなく、子供が一番持つべきものは、あのように内側から湧いてくる生気だ。また、日本の学校では体の弱い学生や知的障害を持つ学生に対しても、それぞれに見合った教育環境を用意するなど、きめ細かいレベル別教育が行われ、学生ひとりひとりの成長を尊重し、集団意識と自信を伸ばすことに力を入れている。国学、書道、茶道、華道など伝統文化を重視し、継承している。こうした理念は中国の教育でも程度の差はあれ存在する。帰国したら、日本の優れたやり方を同僚や友人、家族、学生に紹介し、チャンスがあればきっとまた日本に来たいと思う。

○ 時間が経つのは早く、短い訪日日程も間もなく終わりだ。ここ数日の経験がずっと頭に浮かんできて、印象深かったことが多すぎて振り払うことができない。まず、街がきれいで、清潔で秩序があり、日本人は友好的で、親切で、真面目で、きめ細かく万全な準備を行う。もちろん日本の環境も印象に残っている。通訳さんが紹介してくれた環境汚染対策に使われる先進技術には驚いた。日本のようにできる国は少ないだろう。廃棄物も有効的に再利用していた。次に、教育について、日本の学生は多才で、楽観的かつ向上心があり、小・中学校の効果的な管理体制と教師の責任感が印象に残った。ちり一つない清潔な教室や、さまざまに彩られた廊下の壁、運動場の生き生きした光景も印象深い。

中国と日本は一衣帯水の隣国であり、私は両国民の友好交流を妨げるものは何ものな

いと信じている。帰国後は必ず、今回日本で経験したこと、感じたことを学生や友人、同僚らに詳しく紹介するつもりだ。日本人について感じたことを、写真なども見せて周りの人たちに説明したい。この交流を通じて、日本の教育制度を深く理解することができた。帰国したら、周りの学生や友人にも日本の優れた教育理念を紹介したい。もし彼らが日本留学を考えているなら、積極的に応援し、日本の学校の様子を詳しく教えたいと思う。以上が私の体験と感想の一部だ。中日友好のための交流で少しでも貢献できればと強く願っている。

○

1. 尊重

他人を尊重することは、実は自分を尊重することである。日本は礼儀の国だと聞いてはいたが、来てみて百聞は一見に如かずだと分かった。清潔な道、秩序ある行列、素朴な人々。一番たくさん目にしたのは微笑みとお辞儀で、一番多く耳にしたのは挨拶と“ありがとう”だった。中国にはこんな言葉がある。「人にバラを贈ったら、手には香りが残る」。そばにいる人を尊重すること（あるいは、人と人の関係を尊重すること）の深い意味と重要性を日本で身をもって感じた。

2. 環境保護

どの国にとっても環境保護の意義がますます大きくなっているが、日本はこの分野で世界の最先端を行っている。飛行機が日本の上空にさしかかったとき、緑の植物で覆われた島をはっきり見ることができた。島の外周にのみ小さな家屋とビルがいくつか見えただけ。飛行機から見下ろすと、土肌がむき出しの土地や禿山はひとつも見えず、ほとんどが緑色で覆われていた。街中のどんなところでも、ポイ捨てされたゴミなどほとんど見ることはない。道を掃く清掃員の姿も見えなかった。それから、むやみに痰を吐く人も見かけない。それなのに、ゴミ箱も見つからないのだ。まさに“文明の都”だと感じた。学校を訪問して驚いたのは、その建築である。建築材料には基本的に木材と金属が使用され、プラスチックや合成木材、セメントの使用はわずかだった。また、椅子や棚、板戸は何十年も使いこまれているようで、いたるところに修繕の跡が見られた。こうした環境保護の意識は私たちの国と国民、地球上の人類ひとりひとりが見習うべきだ。